DAIKEN

施工説明書

施工業者様用

Fitshelf

フィットシェルフ間仕切タイプ

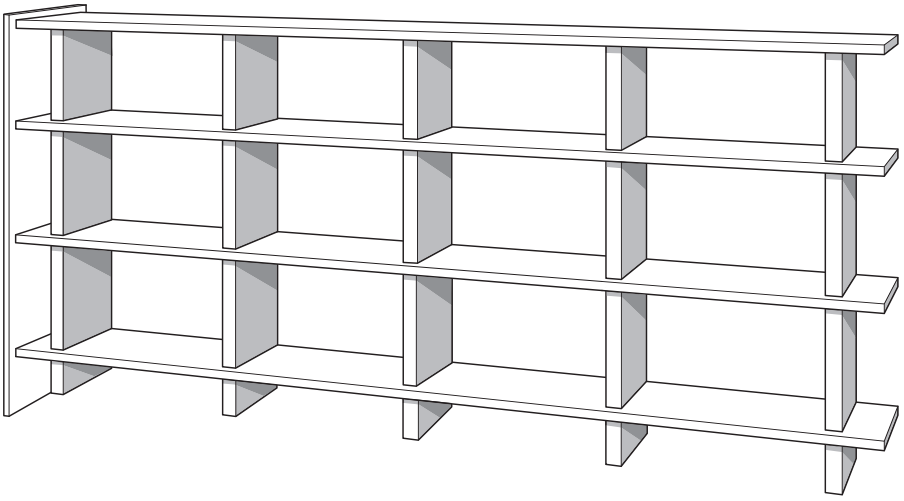
オンボード工法用 施工説明書

施工業者様へ

弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項やお手入れ方法などの重要な内容を記載した「取扱説明書」を添付しております。
必ず、取扱説明書をお施主様に手渡し、使用方法を説明していただきますようお願いいたします。

※取扱説明書は下記のURLから
ダウンロードできます。
https://www.daiken.jp/qr/manual/

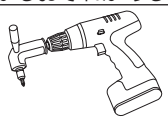
オンボード工法とは、RC 造、戸建の石こうボード壁やコンクリート壁にパネルを接着固定し、パネルに収納をビス固定する施工方法です。



- 本製品の性能と安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき、手順どおりに正しく施工してください。
- この施工説明書に出てくる⚠注意や◆施工上のご注意・⚠警告は、施工上重要な内容が記載されていますので、注意深く読み、よく理解してから作業を行ってください。
- 梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
- 取扱説明書 (別紙) は、必ずお客様にお渡しください。
  (設置終了後、使用方法を説明してください。)

■ 施工の際は、以下の工具をご用意ください。

- 電動ドリル
  ※インパクトドライバーは金具の破損やユニットの破損につながるおそれがあるため、使用しないでください。
  ※方立高さが低い場合にはL型ドライバーを使用してください。



L 型ドライバー



してはいけない

- 手まわしドライバー
- ゴムハンマー
- コンベックス等測定定規
- 水準器
- 下地探し器

大建工業株式会社

240109-JK-104FS-FT-SS

安全上のご注意（必ずお守りいただきたいこと）

この説明書に書かれた注意事項は、施工される人への危害や、お使いになる人への危害や物的破損を防ぐためのものです。必ずお守りください。

⚠	**警告**	取扱いを誤った場合、施工者または使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。

■警告図記号について
本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

⃠	「してはいけない」を示します。
⚠	「注意すること」を示します。
❗	「必ず行なっていただくこと」を示します。

- ユニットの壁・床への固定は、すべての棚板・方立に指定の固定金具を取り付けてください。製品の転倒などにより重傷を負う可能性があります。 ❗
- 施工の作業は、必ず２人以上で行ってください。1人での作業は事故の原因になります。 ❗
- 引出の取り付けは、正しい位置に指定本数の固定ネジで確実に行ってください。（固定が不完全な場合、転倒や脱落等によりケガをするおそれがあります。） ❗
- 固定の際、必ず十分な下地に固定できるように下地の配慮をお願いします。 ❗
  ➡下地材の条件については、「施工前の準備 1 設置場所の下地の確認」をご覧ください。
- 棚板に腰かけたり、登ったり体重をかけないでください。（落下、破損などを引き起こし重症を負う可能性があり大変危険です。） ⃠
- 表記の耐荷重を超えるものをのせないでください。脱落・破損し、ケガをするおそれがあります。（耐荷重はカタログおよび取扱い説明書に表記しています。） ⃠
- ビスの締め付け不足、またはビスの締め過ぎによる空回りの状態に注意してください。（製品が外れて、けがや破損のおそれがあります。） ⃠

⚠	**注意**	取扱いを誤った場合、施工者または使用者が重傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される場合。

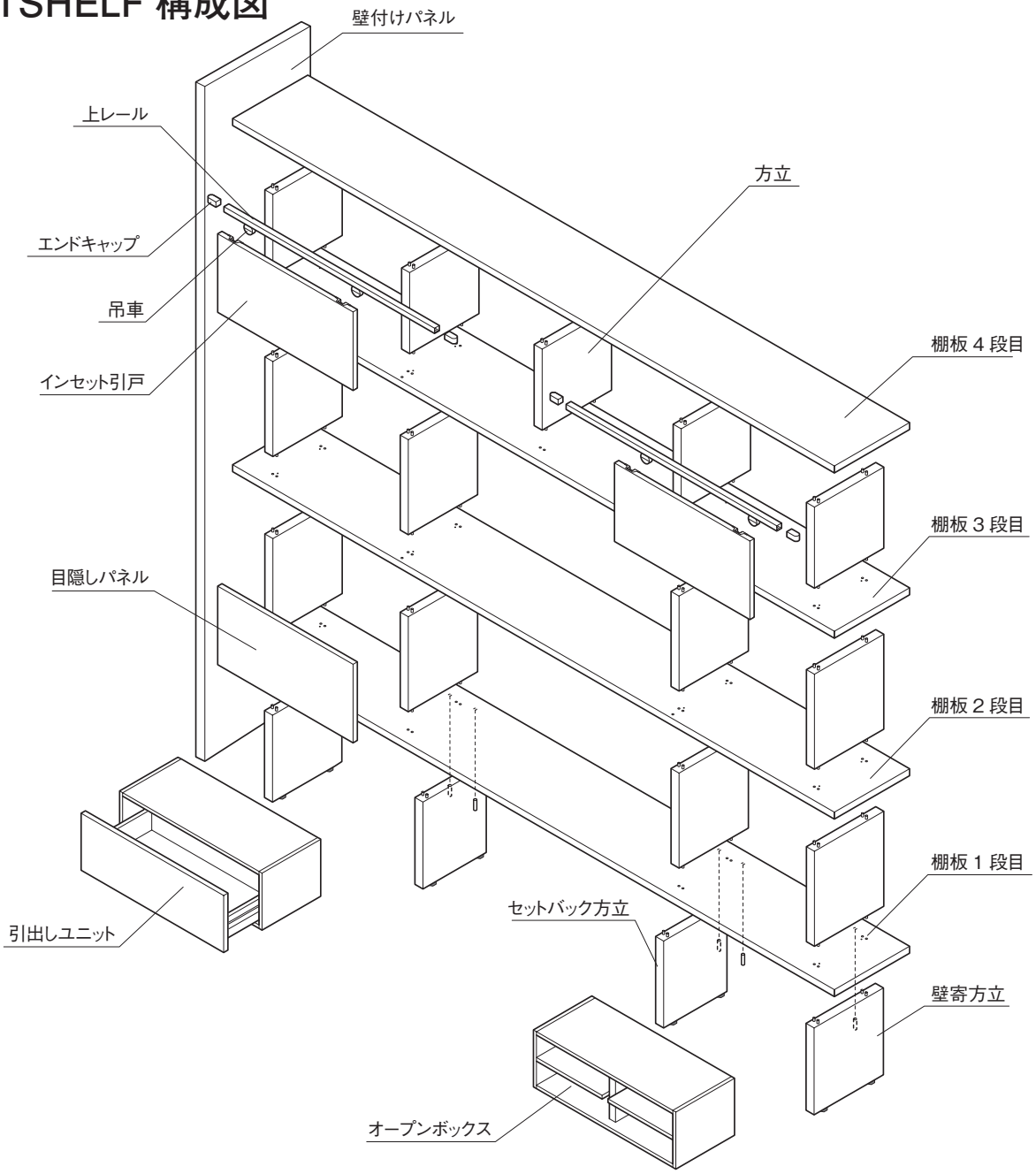
- 一般住宅用の収納です。他の用途に使用しないでください。 ⃠
- 製品の改造はしないでください。製品の強度が失われる可能性があります。施工時に製品の形状を変えるような加工をされた場合は、品質保証責任を負いかねます。 ⃠

施工上のご注意

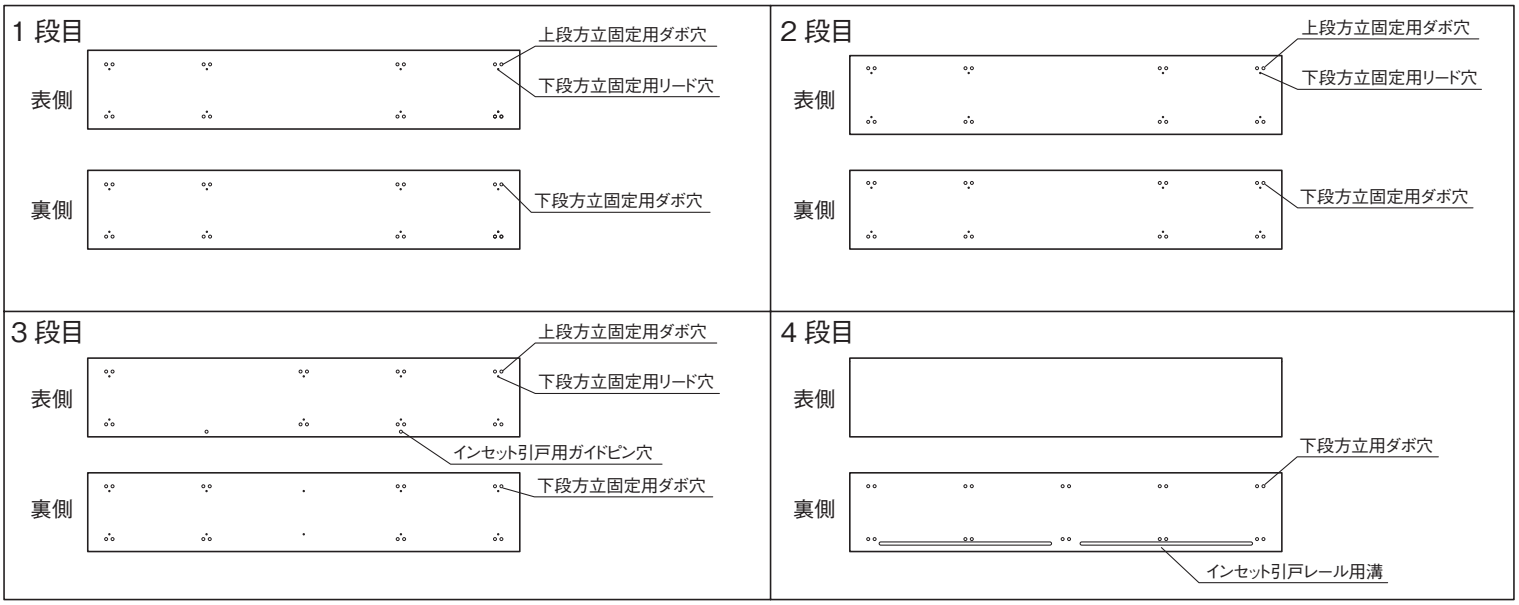
- 接着された壁付けパネルは簡単には取れませんので、ご注意ください。 ⃠
- 施工までの間、製品を立てかけたり、不安定な場所に置いたりしないでください。棚板や方立の反り、キズの原因になります。 ⃠
- 施工時に棚板や方立に足をかけたり、乗ったりしないでください。 ⃠
- 扉の吊り込み・受座の取り付けは確実に行ってください。 ❗

全体図 ※プランは参考例です

FITSHELF 構成図

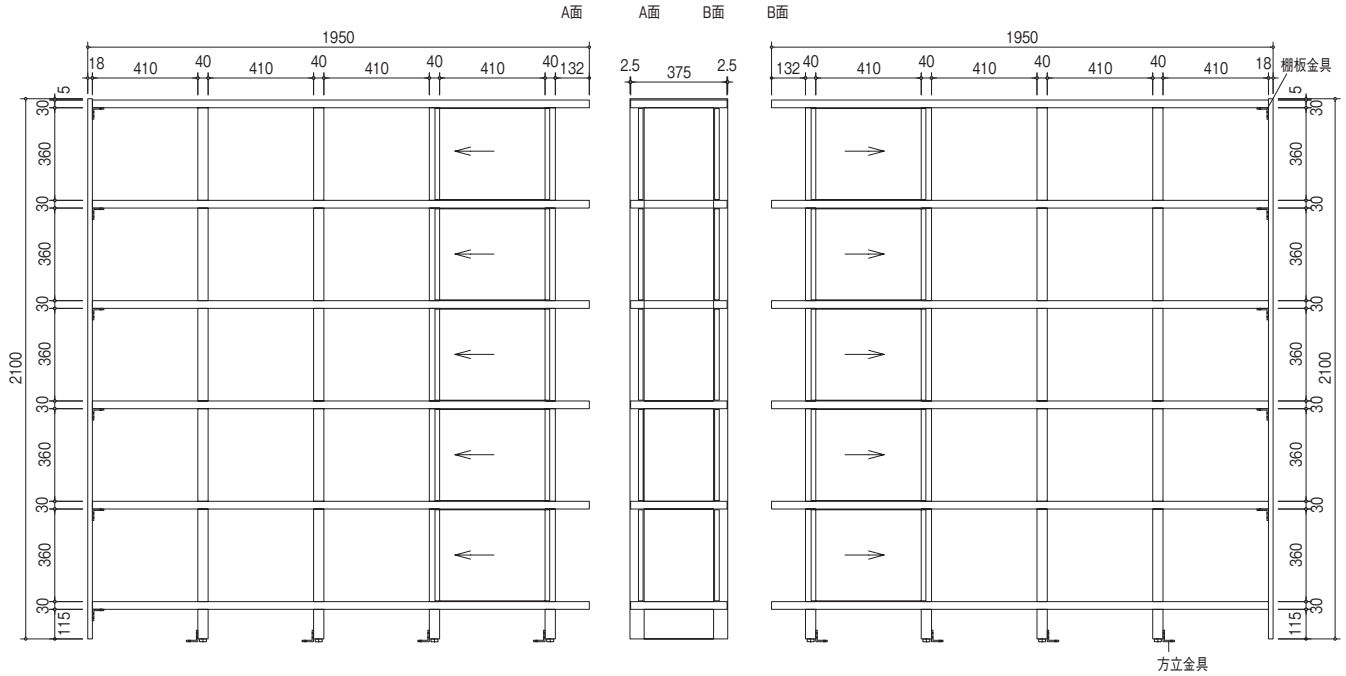


棚板加工図



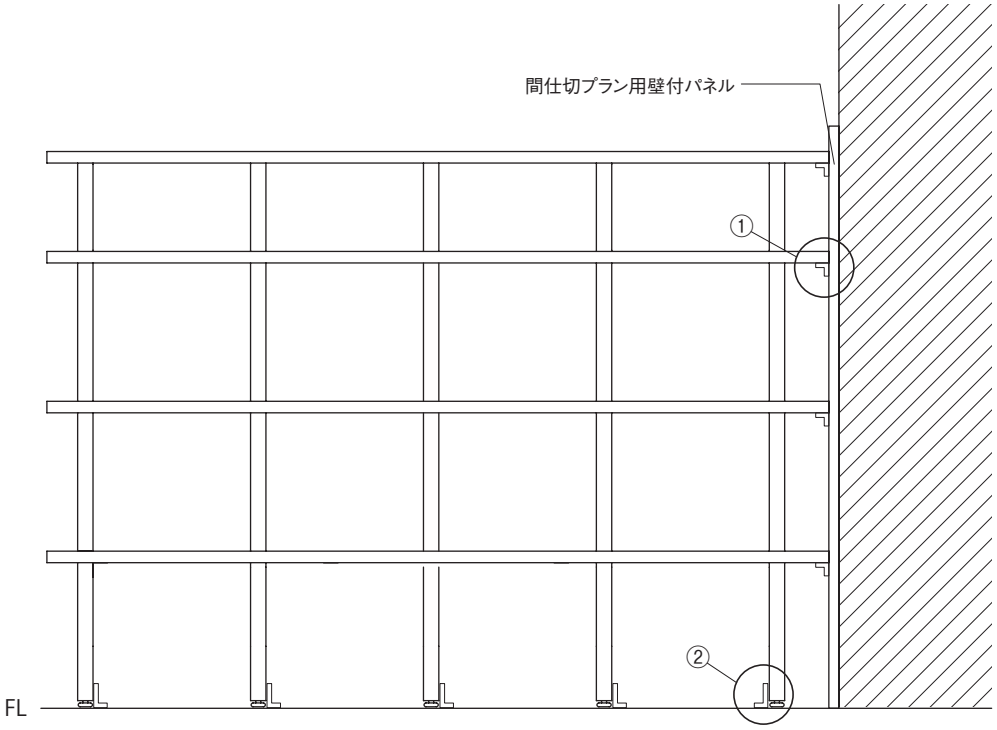
製品寸法図 ※プランは参考例です

●間仕切プラン

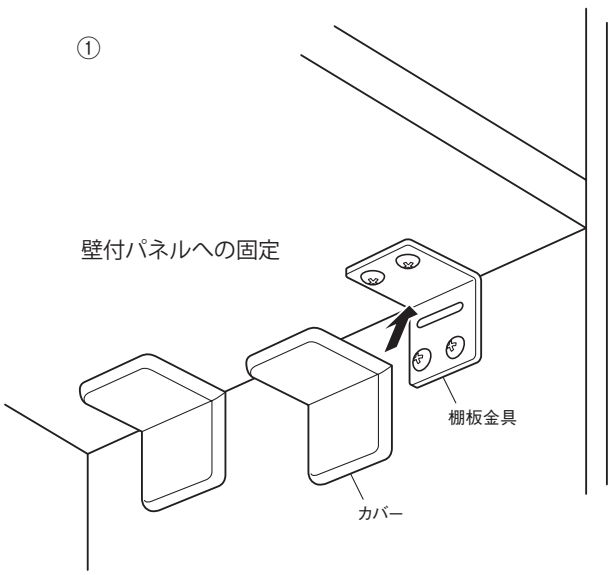


壁・床固定位置 ※プランは参考例です

フィットシェルフは床と壁への固定が必要です。
壁付けパネルを壁に接着固定します。
すべての棚板に1段につき2カ所L金具を取り付け、壁付けパネルに固定します。 必ず行なう

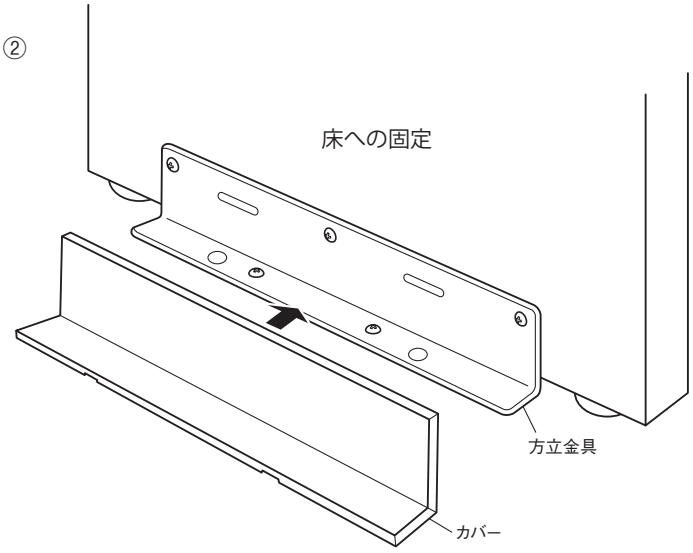


①



＊棚板一段につき2カ所固定してください。

②



＊床に接しているすべての方立に取りつけてください。

⚠警告

- ユニットの固定は、正しい位置に指定本数の壁固定ネジで確実に行ってください。

必ず行なう

施工前の準備

1 設置場所の確認（桟接着での固定）

⚠警告

壁面（石こうボード／コンクリート壁）の状況を確認

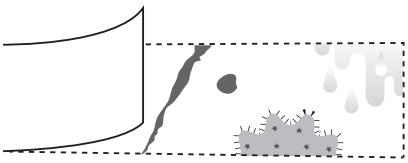
⚠ 施工する壁面の不陸が3mm以内であることを確認してください。
不陸が大きいと、桟が接着できない場合があります。

⚠ 下記に従って
壁面（石こうボード／コンクリート壁）に
問題がないことを確認してください。
製品が転倒してしまう可能性があります。



「石膏ボード施工マニュアル」「石膏ボードハンドブック」（一般社団法人石膏ボード工業会発行）に従って石膏ボードが固定されていること。
※石こうボードの固定が上記に従っていない場合、製品が転倒してしまう可能性があります。

〈石こうボードの場合〉
- 桟を取り付ける場所に割れ、ひび、穴、凹凸がないこと。
- クロスを剥がした場所から粉がぼろぼろ落ちてくるような状態でないこと。
- 石こうボードのぬれ、カビがないこと。
  水廻りの近くに設置する場合は特に注意して確認を行ってください。



〈コンクリート壁の場合〉
- 桟を取り付ける場所に割れ、ひび、穴、凸凹がないこと。

⚠注意

設置場所の壁、床の水平、垂直を確認してください。 ❗ 必ず行なう
製品のゆがみや隙間が生じる可能性があります。

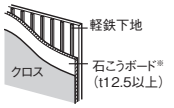
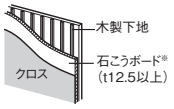
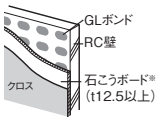
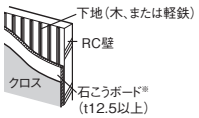
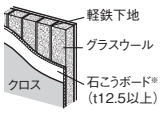
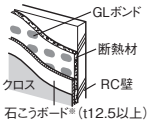
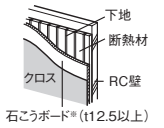
設置場所の壁下地および床が下記の条件に
適合しているかを確認してください。

⚠注意

フィットシェルフは、クロスなどの壁仕上げ後に設置する製品となります。
施工の際は、クロス、壁仕上材に傷を付けないようご注意ください。

⚠注意

天井と最上段の棚板とは300mm以上の隙間が必要です。設置場所の天井高をご確認ください。

壁種類	下地種類		施工可否
間仕切壁	軽鉄製下地		◎
	木製下地		◎
戸境壁 (界壁)	RCクロス直張壁		◎
	RC+GL壁		◎
	RC壁 +木製・軽鉄下地		◎
	軽鉄下地 組乾式壁		◎
外壁	RC壁+GL壁		◎
	RC壁 +木製・軽鉄下地		◎

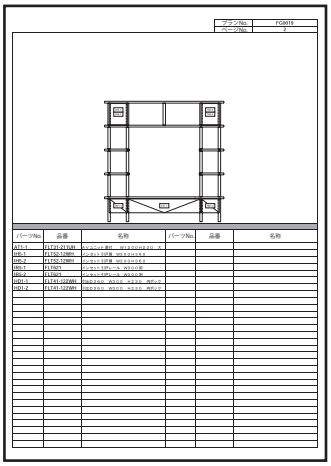
※化粧石こうボード、塗り壁(珪藻土、土壁)および、タイル、
RC壁、石こうボード壁の表面が塗装されている場合は
施工できません。
確実に接着できないため、製品が転倒する可能性があります。

床下地材の条件			施工可否
在来	木質フロア		○
	タイル	アンカーボルト(現場手配)を使用してください	○
	クッションフロア		×
	カーペット		×
	畳		×
二重床			○
直張床		マンション等の直張床材に施工する場合は、事前に、床固定位置のスラブにアンカーや木片を埋め込んでおき、かつ直張床材施工時に根太を入れることが必要です。十分な床下地がない場合、収納が転倒する恐れがあります。	△

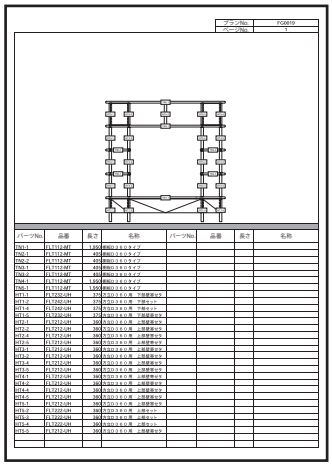
2 部材の確認

・プランによって部材が異なりますので、プランごとのプランパーツ図を同梱しております。
・部材についているパーツNo.シールとプランパーツ図を照らしあわせて、過不足がないか確認して下さい。
・製品の組み立ては、プランパーツ図に従って部材を配置して下さい。

必ず行なう



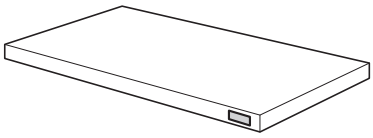
プランパーツ図
棚板・方立



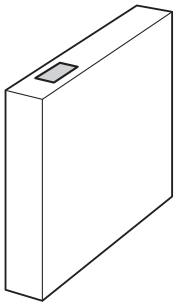
プランパーツ図
オプションパーツ

	シール記号
棚板	TN
方立	HT
引出	HD
インセット引戸	IH
インセットレールセット	IR
オープンユニット	OP
壁付けパネル	WP
目隠しパネル	MP

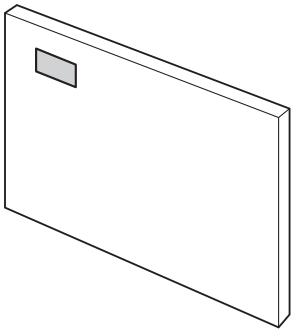
・各部材には、パーツNo.シールがはりつけてあります。



棚板…手前右側木口面



方立…上木口面

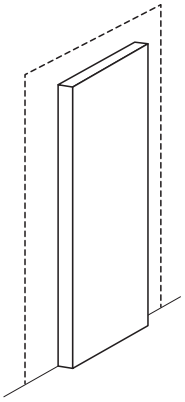


インセット引戸・引出・…正面左上

施工の流れ

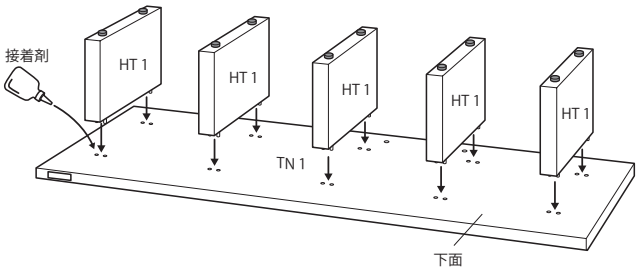
1 間仕切用壁パネルの接着

壁にパネルを接着



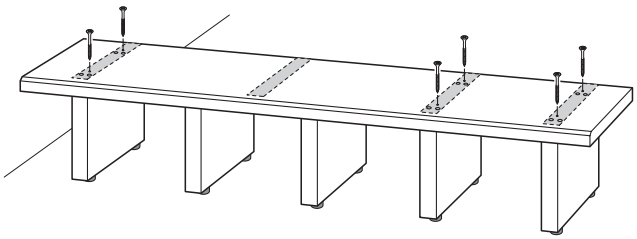
2 棚の組み立て

1段目の棚板に方立を取り付け



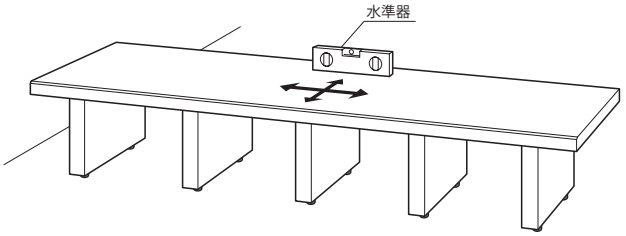
3 棚板のビス固定

リード穴がある場所での方立のビス固定



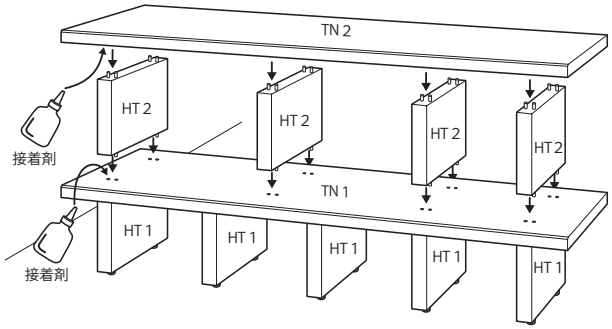
4 棚の設置

棚板の水平の確認



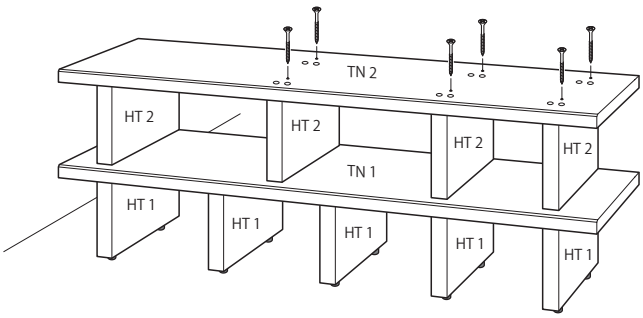
5 2段目の方立と棚板の取り付け

1段目の棚板の上に方立と棚板を取り付け



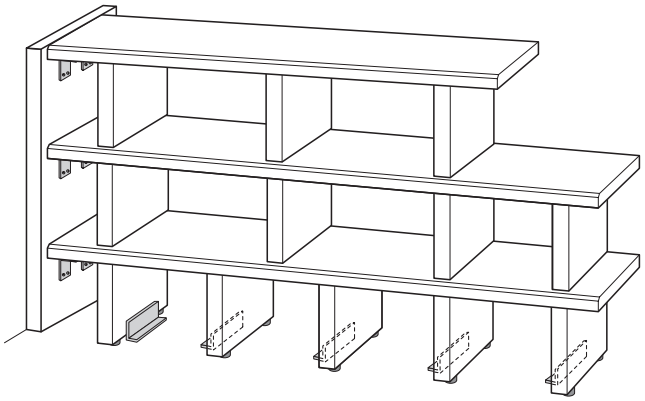
6 棚板のビス固定

リード穴がある場所での方立のビス固定
（3段目以上は同じ手順）



7 壁・床への固定

壁・床固定金具で本体を壁面に固定



壁付けパネルの接着

用意する部材

WP
（壁付けパネル）



DS接着剤（専用接着剤）
内容量333mL

⚠警告

必ず専用接着剤をお使いください。
専用接着剤以外の接着剤を使うと、
強度が低下し製品の落下、
破損の可能性があります。

■壁付けパネル　D380　1枚/1梱包

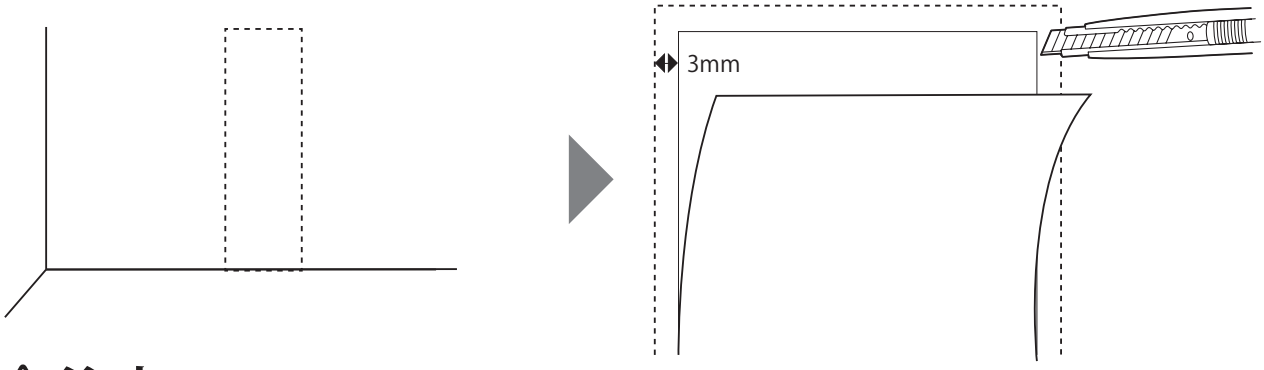
◆組み立て上のご注意

・組み立ては2人作業で行ってください。

必ず行なう

1 クロスを剥がす

プランニングソフトにより取り出した図面、または、製品に同梱の図面に従い
壁付けパネルの位置出しを行います。
壁付けパネルは一度接着すると簡単には取れません。位置出しは正確に行ってください。
壁付けパネルの周囲より、3mm程度内側のクロスを剥がします。

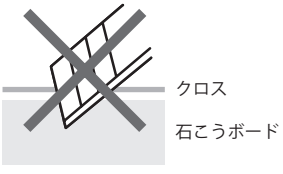


⚠注意

クロスがしっかりはがされていることを確認してください。
クロスが残っていると強度が低下する可能性があります。

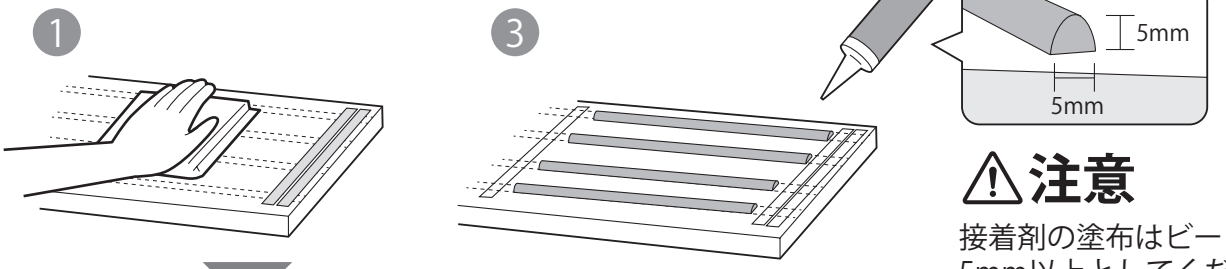
⚠注意

下地を傷付けないよう十分に注意して行ってください。
石こうボードの表面紙が切れたり、石こうボードに傷が付いた場合、
強度が低下する可能性があります。



2 壁付けパネルの接着

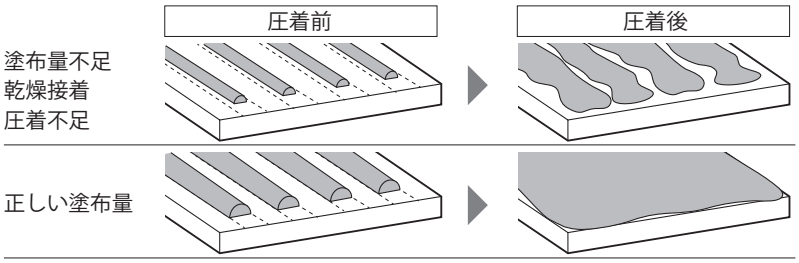
接着する壁面および壁付けパネルのゴミやほこりを除去します。両面テープのはくり紙をはがしてから、壁付けパネルに専用接着剤を塗布します。ガイドラインに添ってラインが隠れるまで5mm以上のビード状（線状）に4回塗布します。



⚠注意

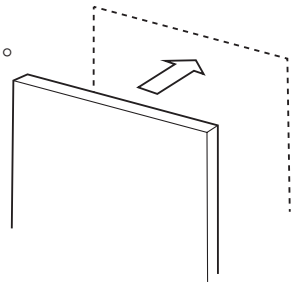
接着剤の塗布はビード径
5mm以上としてください。

塗布量不足、乾燥接着、圧着不足により、壁付けパネル全体に接着剤が広がらない状態となります。



クロスを剥がした部分に、壁付けパネルを接着します。
施工可能温度5℃～35℃

貼り合わせが可能な時間は
室温 23℃：約 10 分、夏場 30℃：約 5 分です。
この時間内に貼り合わせてください。

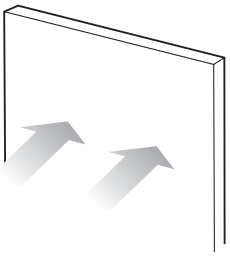



夏場：5 分以内

⚠注意

この時間を過ぎると、接着不良になり、製品の落下、破損の恐れがあります。

接着後、壁付けパネル全体にしっかり圧力をかけます。
1時間以上養生させてから、
収納を固定します。



⚠注意

壁付けパネルにビス、釘、
タッカーは打たないように
してください。接着力不足により、
転倒するおそれがあります。

⚠注意

接着後スグは強度が充分ではありません。
必ず 1 時間以上養生させてください。

必ず行なう


1 時間以上
養生

⚠注意

壁付けパネルが複数ある場合、1本ずつ接着剤を塗布し、接着してください。一度に接着剤を塗布すると、乾燥接着になるおそれがあります。手に接着剤が付かない状態では、乾燥接着になります。その場合は新しい壁付けパネルを使用し、再度塗布して施工してください。

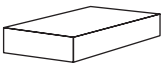
3 接着の確認

養生の後、壁付けパネルが壁にしっかり固定されているか
確認してから収納を取り付けてください。

1 段目の棚の組み立て

用意する部材

TN（棚板）　HT1（方立）


施工部材セット

※施工部材セットは複数梱包に分かれている場合があります。

組み立て上のご注意

・組み立ては2人作業で行ってください。 必ず行なう

・組み立ての前に周辺を養生してください。組み立ての際に棚板に方立をたたき込むことがあるため、階下に音が響かないようにコンパネ等で十分に養生を行って下さい。 必ず行なう

■棚板　D375

		種類	数量	仕様
棚板			1	
同梱部品	部品箱	方立（棚板下面）連結ビス	連結数×2	φ3.8×51
		方立（棚板上面）連結ビス	連結数×2	φ3.8×51
		方立（棚板上面）連結キャップ	棚板下部ユニットなし：連結数×2 棚板下部ユニットあり：0	ビス穴隠しキャップ　棚板同色
	最下段　棚板	施工説明書	1/1プラン	

■方立　下部用／上部用

	下部／上部	下部	上部	仕様
方立		1/2/3/4		

■施工部材セット　A

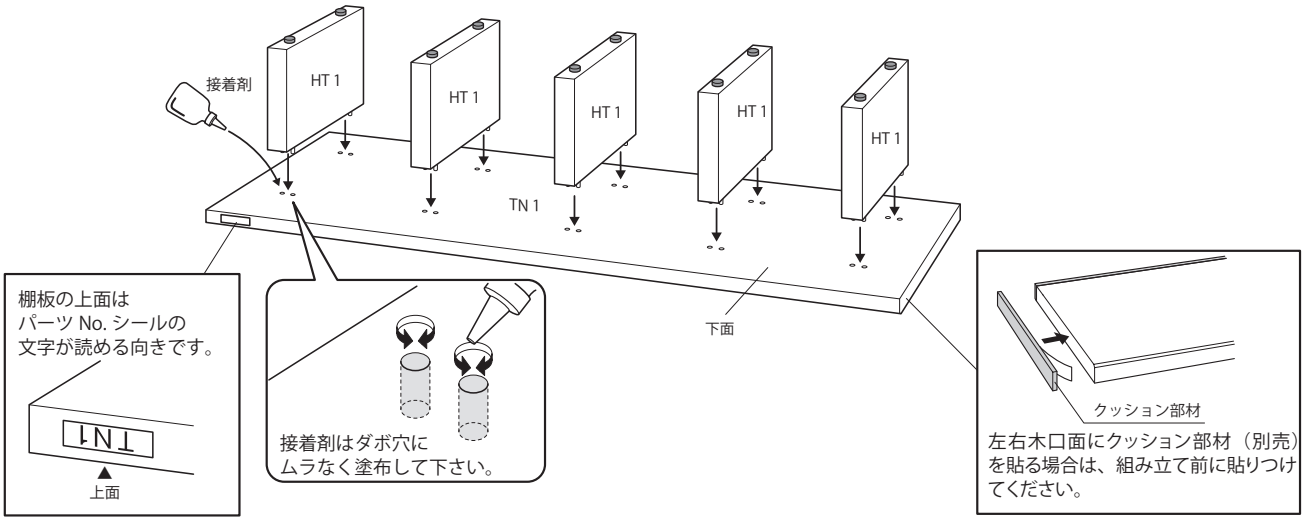
	種類	数量	仕様
同梱部品	棚板金具	棚板枚数×2	L型補強金具（ユニクロ）
	棚板金具固定用ビス	棚板枚数×4	（壁固定用）なべスレッドφ4×16 （棚板固定用）なべタッピンφ4×16
	アジャスター調整スパナ	1	
	接着剤	1	20g

■施工部材セット　B

	種類	数量	仕様
同梱部品	方立金具	下部方立個数×1	L型補強金具（ユニクロ）
	方立金具固定用ビス	方立個数×5	皿タッピンφ4×20

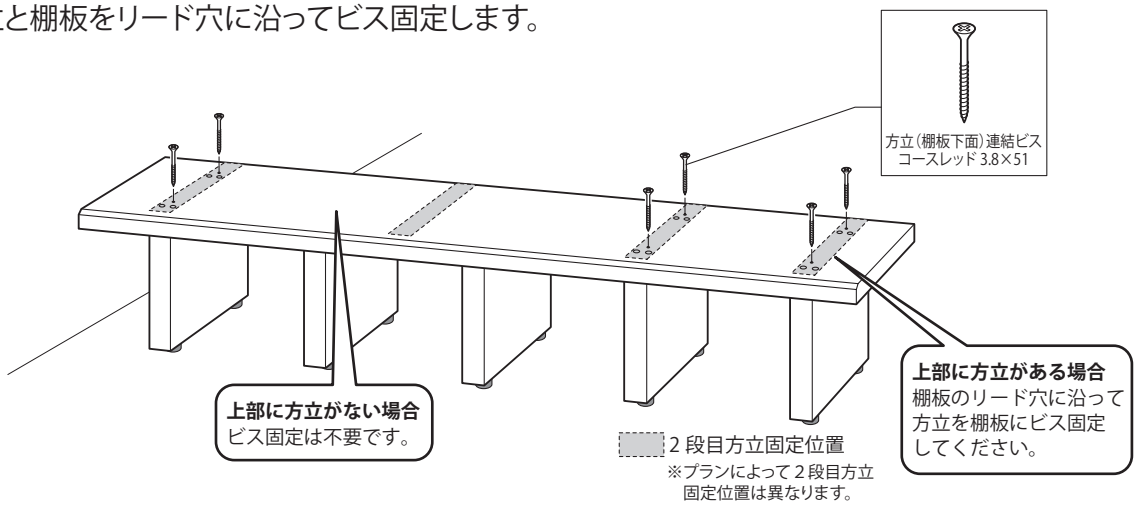
1 棚の組み立て

はじめに、施工部材セットを開梱ください。接着剤、施工金具類が入っています。
1段目の棚板と方立を組み立てます。



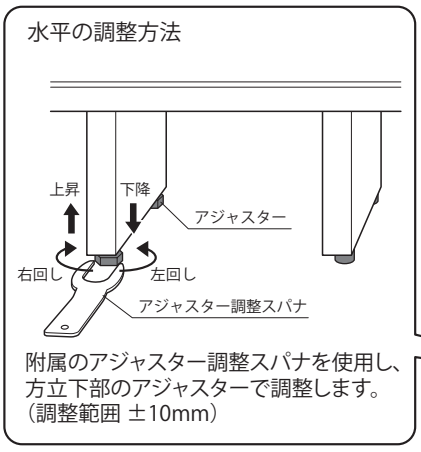
2 棚板のビス固定

方立と棚板をリード穴に沿ってビス固定します。



3 棚の設置

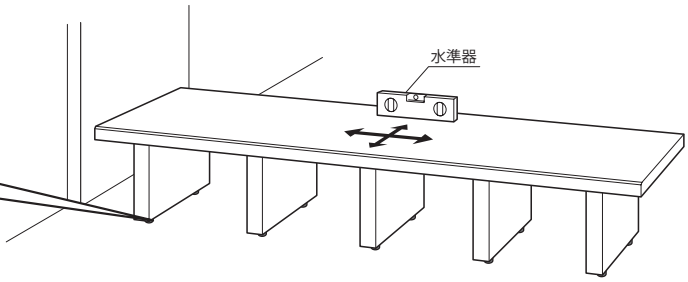
棚板を設置し、水準器で棚の左右・手前奥の水平を確かめます。



◆施工上のご注意

必ず行なう

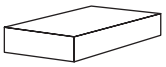
必ず水平を調整してから 2 段目以降の組み立てを行ってください。
水平でないとがたつきなどの不具合が生じます。



2段目以降の棚の組み立て

用意する部材

TN 2～（棚板）　HT 2～（方立）

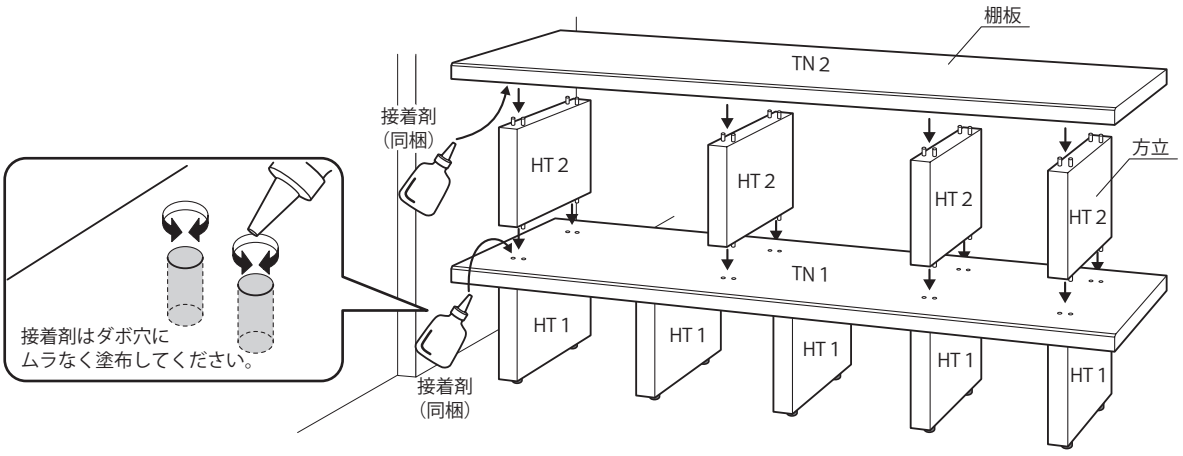


施工部材セット

※施工部材セットは複数梱包に分かれている場合があります。

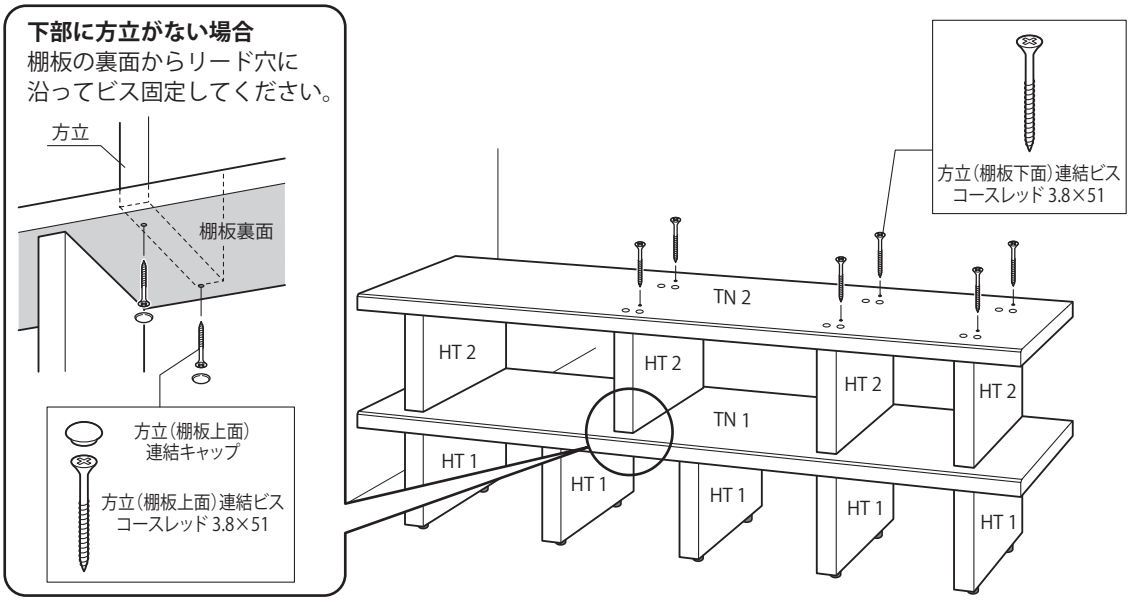
1 方立・棚板の取り付け

1段目の棚板の上に方立と棚板を組み立てます。



2 棚板のビス固定

方立と棚板をリード穴に沿ってビス固定します。

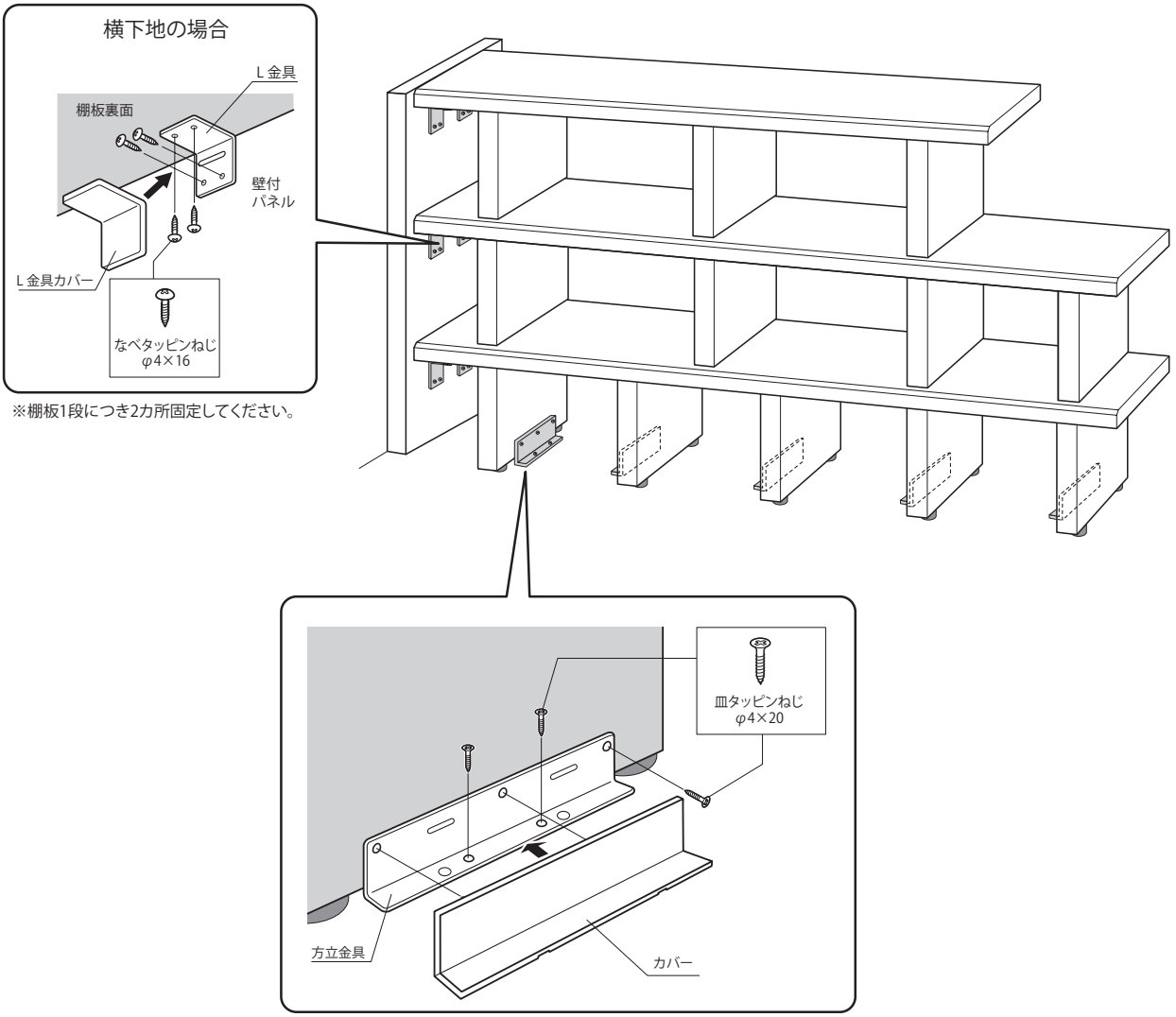


3段以上ある場合は同じ手順で組み立ててください

壁・床面への固定

1 壁固定金具・床固定金具の取り付け

壁固定金具で本体を壁付パネルに固定し、床固定金具で床に固定します。
固定方法は下地の種類により異なります。
詳しくは、施工前の準備「1.設置場所の下地の確認」を参照してください。 必ず行なう



※棚板1段につき2カ所固定してください。

※床に接しているすべての方立に取り付けてください。
※タイル床でアンカーボルト（現場手配）を使用する場合は、アンカーボルトに合わせた下穴を開け、ビス固定してください。

⚠警告

- ユニットの壁付パネルへの固定は、正しい位置に指定本数の壁固定ネジで確実に行ってください。 必ず行なう
- 固定の際、必ず十分な下地に固定できるように下地の配慮をお願いします。
  下地材の条件については、「施工前の準備 1 設置場所の下地の確認」をご覧ください。
  固定、設置方法が確実でないと、ユニットの転倒や落下の原因になります。 必ず行なう

建物（マンション）への固定 図中の丸数字（❶など）は、手順を表しています。

⚠注意　取り付け可能な床条件は、根太＋木質フロア、タイルの場合のみです。二重床や直張床の場合は十分な床下地を入れてください。

コンクリートビス固定のしかた

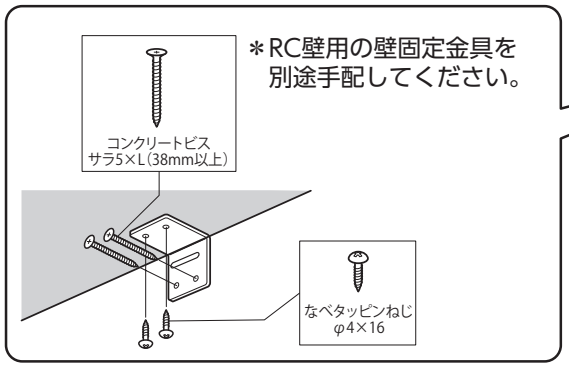
施工の条件

- **壁面にコンクリートビス、床にアンカーボルトを打つことの許可を得る。**
  許可が取れない場合は、固定できません。
  ・分譲マンションの場合…管理組合から許可を得る。
  ・賃貸マンションの場合…家主様から許可を得る。
- **固定する壁が、RCクロス直張壁またはRC壁＋GL壁であること。**

RCクロス直張壁の場合

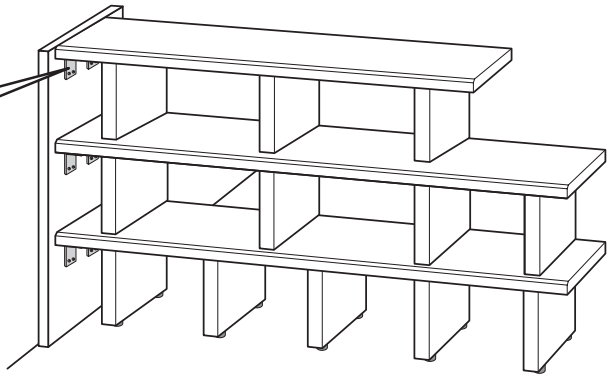
1. 固定位置の確認

固定位置を確認してください。



※棚板1枚につき2カ所固定します。

2. ユニットの固定



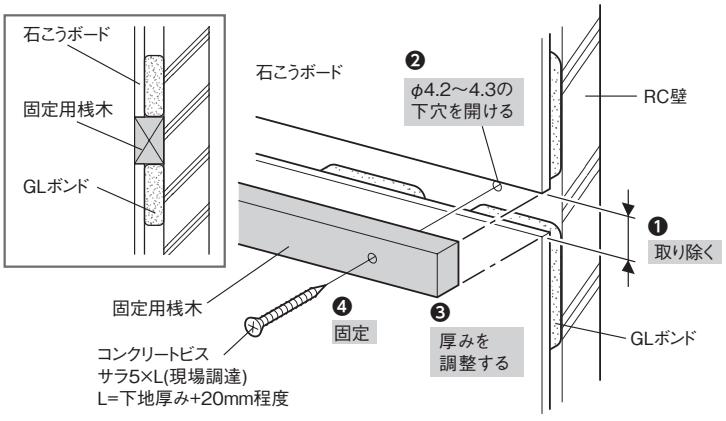
RC壁+GL壁の場合

1. 固定位置の確認

固定位置を確認してください。

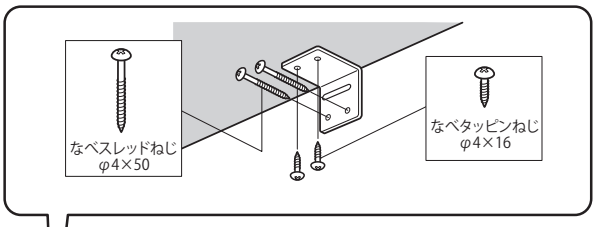
2. 固定用桟木の取付け

❶ 固定用桟木の固定位置の石こうボードと
GLボンドを取り除く。
❷ 固定用桟木の取付位置にφ4.2～4.3の下穴を開ける。
❸ 固定用桟木を取付けた際、石こうボードとそろうように、
固定用桟木の厚みを調整する。
❹ 固定用桟木を壁面にコンクリートビスで取付ける。

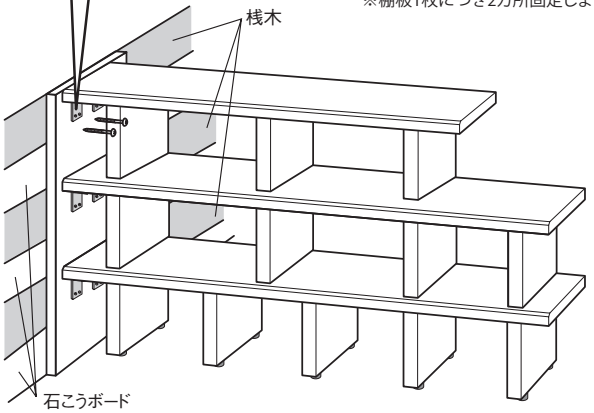


3. ユニットの固定

固定用桟木に壁固定用金具で壁付けパネルを
固定します。



※棚板1枚につき2カ所固定します。



インセット引戸の取り付け

用意する部材

IH（インセット引戸扉）　IR（上レール）

■インセット引戸　扉

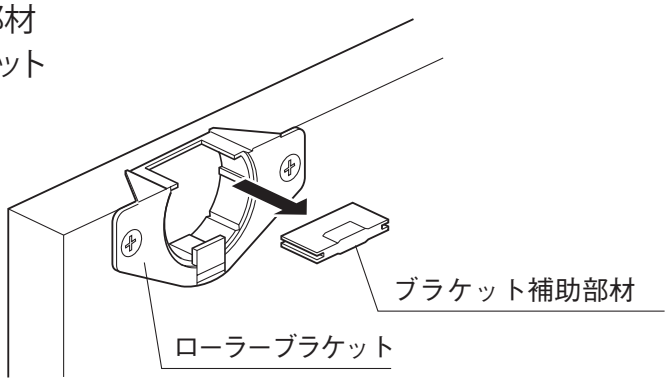
		方立間 種類	W300/W450/W600 扉	仕様
インセット引戸　扉			1	ローラーブラケット取付済
同梱部品	ガイドピン		1	φ5×25

■インセット引戸　上レール

		長さ 種類	408 / 708 / 1008 レール	仕様
インセット引戸　上レール			1	
同梱部品	上レール用ビス		6	皿タッピンねじφ3×16
	エンドキャップ		2	
	エンドキャップ用ビス（レール側）		2	皿タッピンねじφ3×16
	エンドキャップ用ビス（端部側）		2	皿タッピンねじφ3×20
	吊車		2	

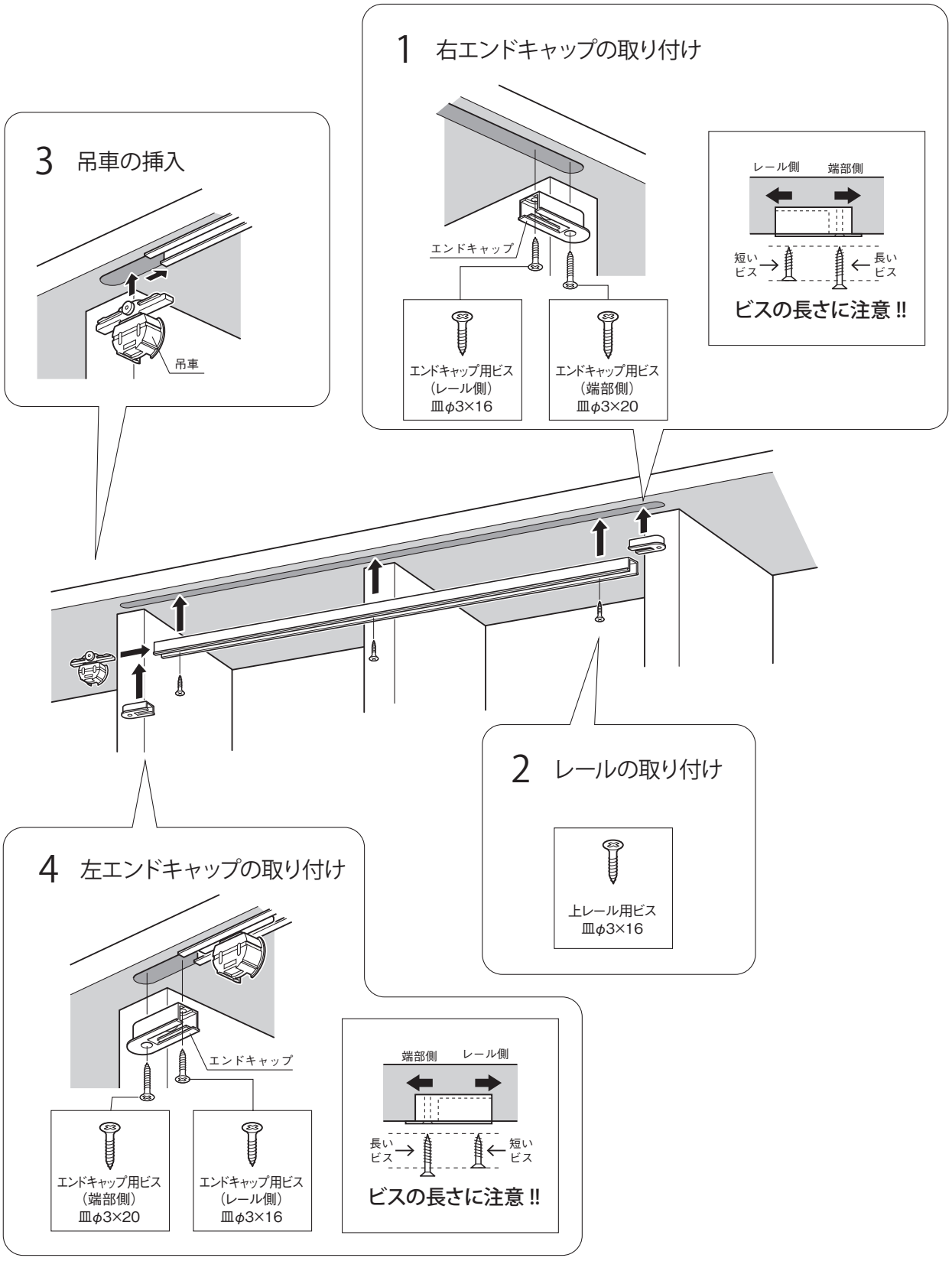
1 ローラーブラケット補助部材の取り外し

ローラーブラケットからブラケット補助部材を外します。補助部材は、ローラーブラケット装着後は不要になります。



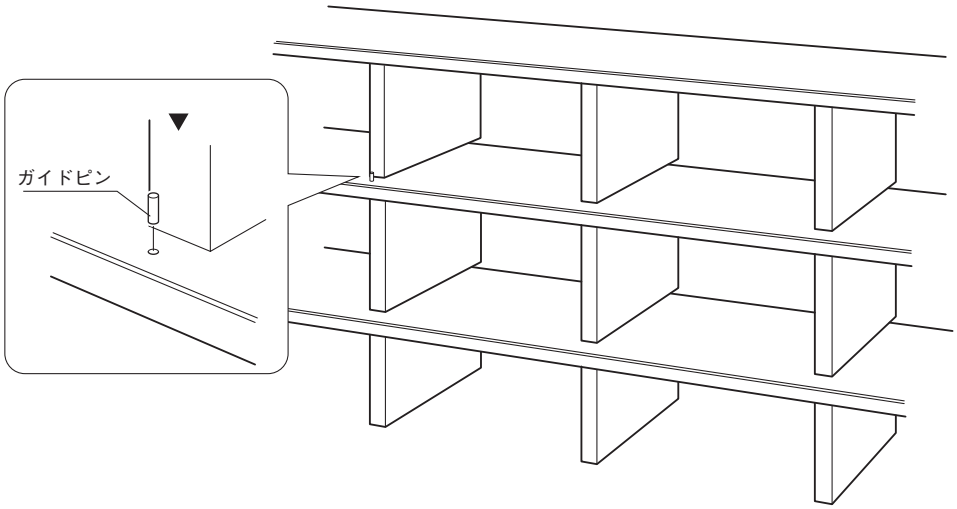
2 レール・吊車の取り付け

棚板加工の端部にエンドキャップを取り付けてから
レールを取り付けます。
吊車をレールの中に挿入し、もう一方の端部
にエンドキャップを取り付けます。



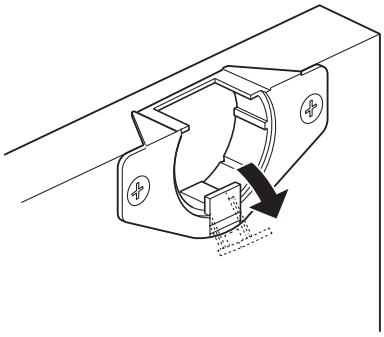
3 ガイドピンの取り付け

棚板の加工部にガイドピンを差し込みます。



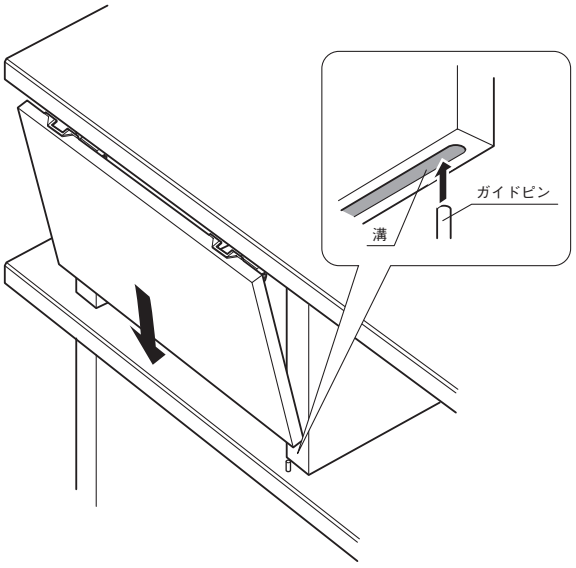
4 扉の吊り込み①

吊車のセーフティーロックを引っぱって
解除します。(扉1枚につき2カ所)



5 扉の吊り込み②

戸の下部溝をガイドピンに差し込みます。

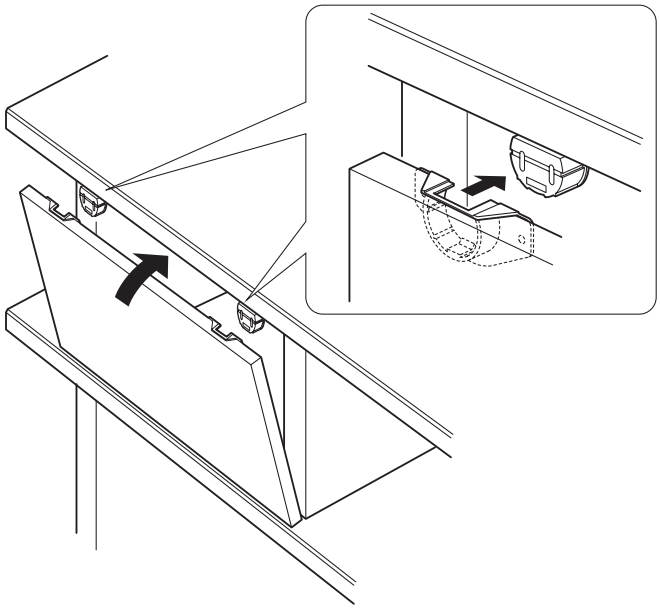


6 扉の吊り込み③

扉左右2カ所の吊車をローラーブラケットの中におさめます。

施工上のご注意

パチッと音がするまで確実に押し込んでください。



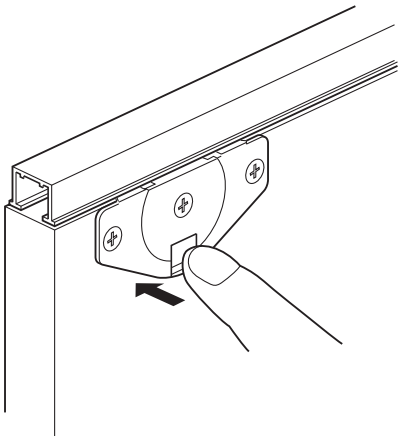
7 扉の吊り込み④

最後にセーフティーロックを押し込んでロックします。

⚠警告

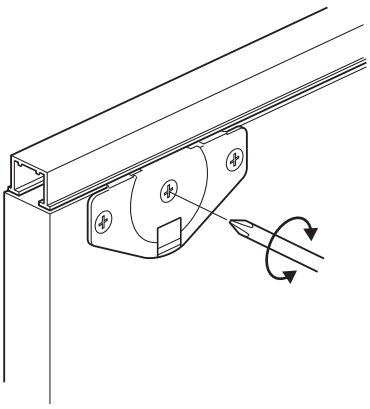
最後にローラーブラケットのセーフティーロックを必ずかけてください。
ロックをかけ忘れますと、戸が外れるおそれがあります。

必ず行なう



8 扉の高さ調整

調整操作は扉を吊ったままの状態でできます。
プラスドライバーで調整ねじを回すと、戸が上下に移動します。
（出荷時の状態より、下に４㎜調整できます。）



引出しの取り付け

用意する部材

HD

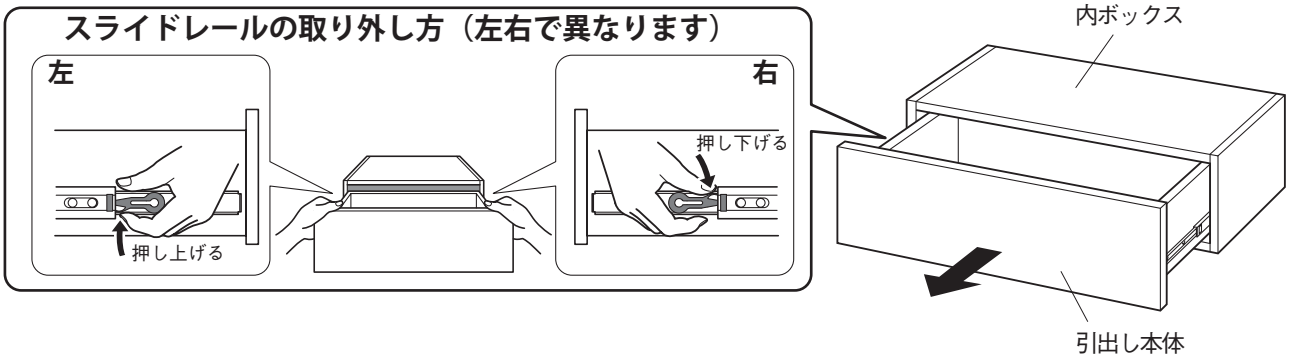
（引出し）

■引出しW300／W450／W600　（引出し前扉・引出し内ボックス・引出し本体　組み立て完成品）

			幅	W300	W450	W600	仕様
			種類	引出し			
引出し前扉				1			
引出し内ボックス				1			
引出し本体				1			
同梱部品	方立固定用（H230）（H360）	連結ビス		10			φ3.8×32
		連結ワッシャー		10			φ4用
		連結キャップ		10			ブラック／ホワイト
	方立固定用（H100）	ビス		4			トラス4×30（H100）

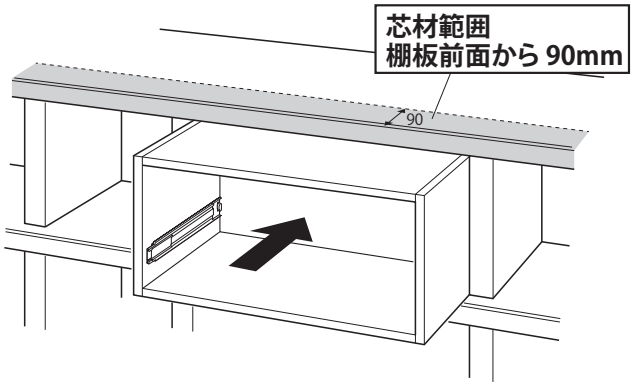
1 取り付け準備

引出し本体（組み立て完成品）を内ボックスから取り外します。



2 内ボックスの設置

内ボックスをプランパーツ図に従って
所定位置に設置します。



施工上のご注意

棚板はフラッシュパネルを使用しています。
ボックス設置の際にクランプ等の持具を
使用する場合、必ず芯材のある位置に
かかるように、当て板をしてください。

必ず行なう

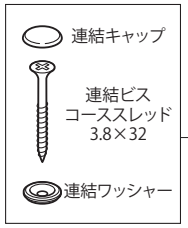
3 内ボックスの取り付け

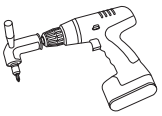
ボックスを方立に固定します。

◆施工上のご注意

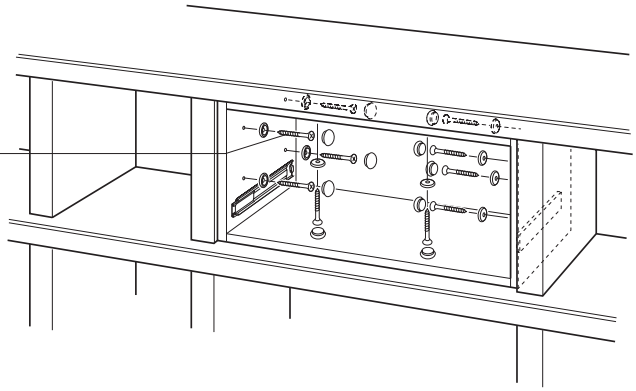
不具合防止のため、
レールを養生してから
取り付けを行ってください。

※ボックス高さが低い場合には
L型ドライバーなどを使用してください。

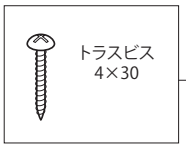


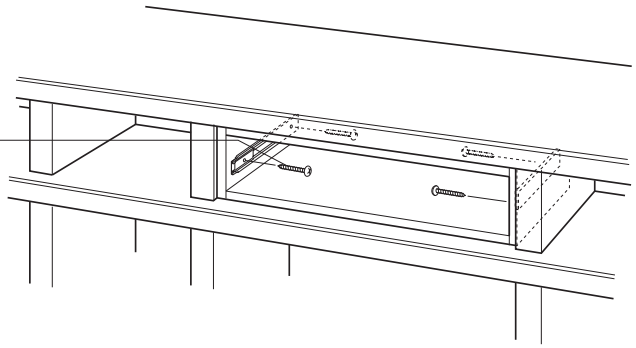


L 型ドライバー



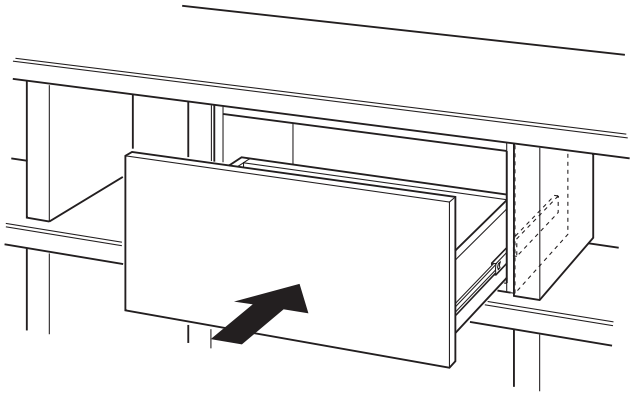
ボックスの高さが100mm以下の場合は、同梱のトラスビスφ4×30を使い
ボックスに取り付け済のレールよりリード穴のある場所にビス止めし
ボックスを固定してください。





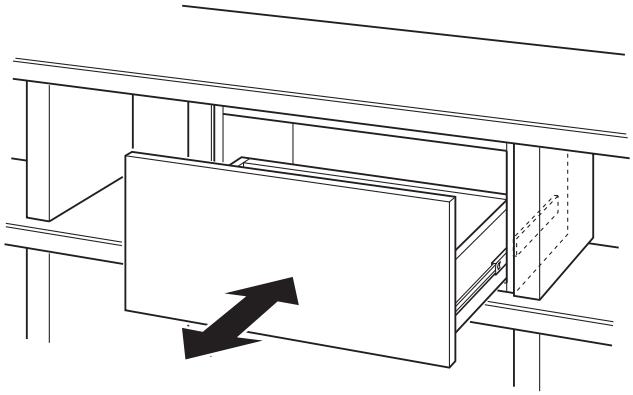
4 引出し本体の取り付け

引出し本体を内ボックスの
レールに差し込みます。



5 引出しの動作確認

引出し本体を２～３回開閉し、動作確認
を行ってください。



オープンボックスの取り付け

用意する部材

OP

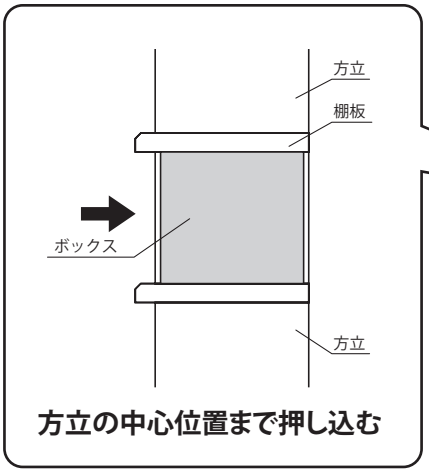
（オープンボックス）

■オープンBOXユニット　（オープンBOXユニット　組立完成品）

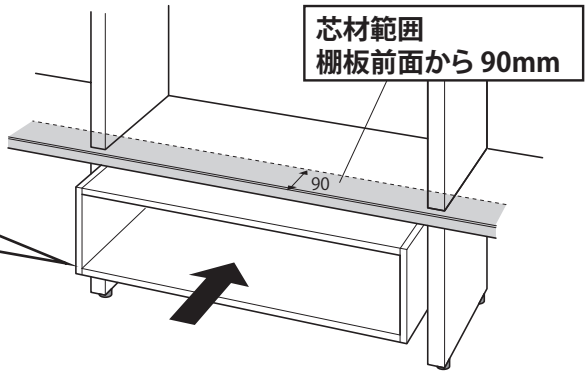
			幅	～W750		W900～		仕様
			奥行き	D250	D360	D250	D360	
			種類	オープンユニット				
オープンBOXユニット				1				
同梱部品	方立固定用	連結ビス		10				φ3.8×32
		連結ワッシャー		10				φ4用
		連結キャップ		10				ブラック／ホワイト

1 ボックスの設置

ボックスを所定位置に設置します。



方立の中心位置まで押し込む



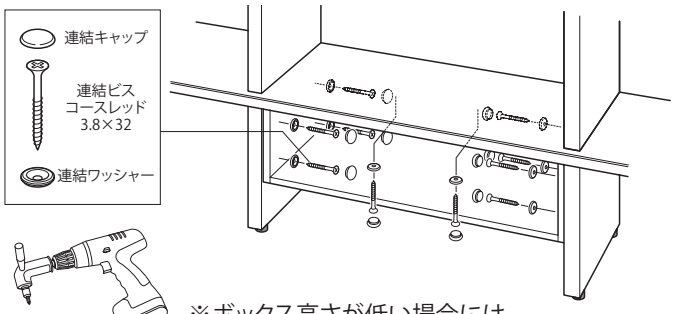
◆施工上のご注意

棚板はフラッシュパネルを使用しています。
ボックス設置の際にクランプ等の持具を使用する場合必ず芯材のある位置にかかるように、当て板をしてください。

必ず行なう

2 ボックスの取り付け

ボックスを方立に固定します。



L 型ドライバー

※ボックス高さが低い場合には
L型ドライバーなどを使用してください。

目隠しパネルの取り付け

用意する部材

MP

（目隠しパネル）

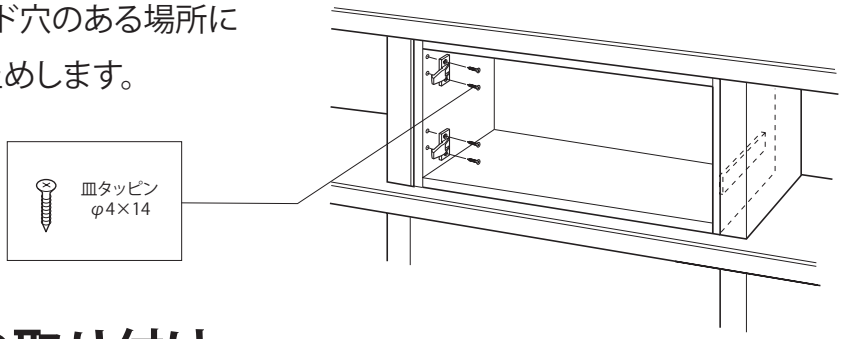
■目隠しパネル

	種類	高さ	H100			H230		H360	仕様
		幅	W300	W450	W600	W300	W450	W600	
目隠しパネル			1						
同梱部品	パネルパーツ		2			4			
	フレームパーツ		2			4			
	固定ビス		8			16			皿タッッピンφ4×14
方立取付用型紙			1			1			

引出しの裏面に取り付ける場合

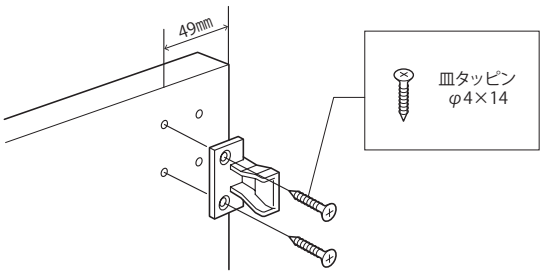
1 フレームパーツの取り付け

引出し内ボックスのリード穴のある場所に
フレームパーツをビス止めします。



2 パネルパーツの取り付け

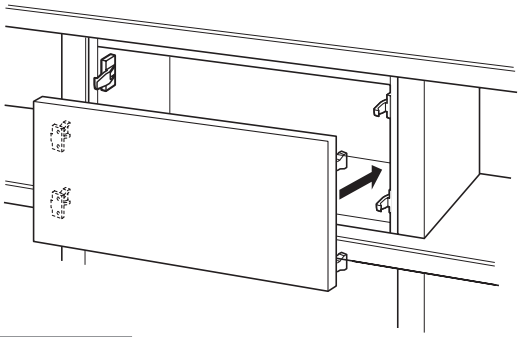
パネル裏面のリード穴のある位置に
パネルパーツをビス止めします。



※内側のリード穴に止めてください。

3 パネルの取り付け

取り付けたパーツ同士の位置を合わせ、
パネルを押し込みます。

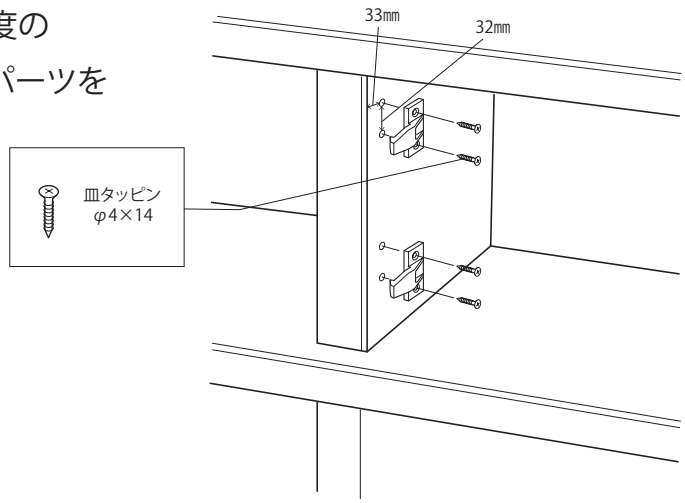


引出しがない場所に取り付ける場合

1 フレームパーツの取り付け

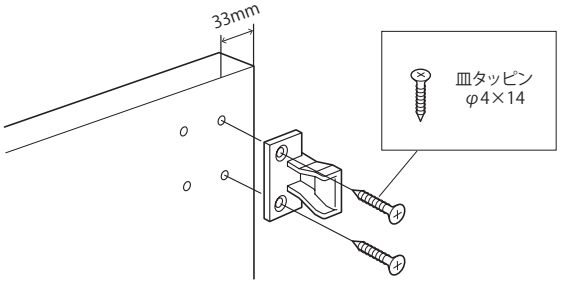
型紙を使用し、方立にφ3程度の
リード穴を開けて、フレームパーツを
取り付けます。

※高さ位置は方立高さによって異なりますので扉のパネルパーツに合わせて下穴をあけてください。



2 パネルパーツの取り付け

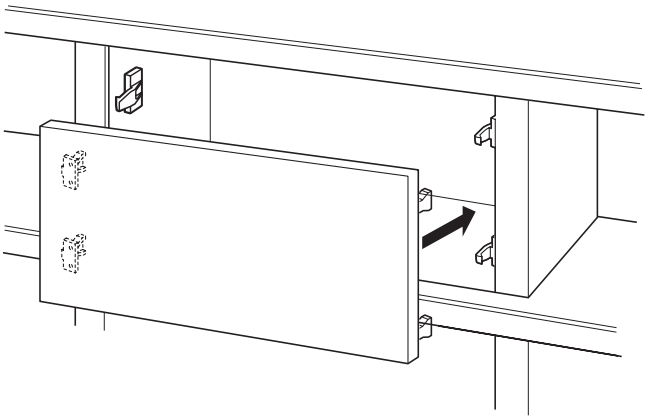
パネル裏面のリード穴のある位置に
パネルパーツをビス止めします。



※外側のリード穴に止めてください。

3 パネルの取り付け

取り付けたパーツ同士の位置を合わせ、
パネルを押し込みます。



ホルムアルデヒド発散区分資料

施工業者様用

DAIKEN フィットシェルフ	F☆☆☆☆ （住宅部品表示ガイドラインによる）

この度は DAIKEN フィットシェルフをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本製品のホルムアルデヒド発散に関する性能担保は下の図表の様になっております。
建築確認の際に本資料をご利用ください。

●製品の構成とホルムアルデヒド発散区分

規制対象外（F☆☆☆☆）

構成部位		表面材料	発散区分	備　考
❶	棚板	化粧PB	規制対象外 （F☆☆☆☆）	日本建材・住宅設備産業協会表示登録品 :K-002603
❷	方立	化粧PB	規制対象外 （F☆☆☆☆）	日本建材・住宅設備産業協会表示登録品 :K-002603
❸	扉	化粧MDF	規制対象外 （F☆☆☆☆）	日本建材・住宅設備産業協会表示登録品 :K-002058
		化粧PB	規制対象外 （F☆☆☆☆）	日本建材・住宅設備産業協会表示登録品 :K-002603
❹	ユニット本体	化粧MDF	規制対象外 （F☆☆☆☆）	日本建材・住宅設備産業協会表示登録品 :K-002058
❺	ユニット本体	化粧PB	規制対象外 （F☆☆☆☆）	日本建材・住宅設備産業協会表示登録品 :K-002603
❻	丁番等の金具	−	告示対象外	
❼	納まり部材等	−	規制対象外部位	規制対象外（F☆☆☆☆）同等品質材料を使用

木質材料の性質について

木質収納扉の「反り」について

木材を原料とする木質材料（合板、パーティクルボード、MDFなど）を加工して作られた収納扉は、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は、収納扉周辺の温度、湿度等の環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、収納扉の室内側と収納庫側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。

「反り」の発生を出来るだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。
「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

①エアコン、暖房器具等をお使いになる場合は、収納扉に直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。
②夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房等により、室内側と収納庫側の環境条件の差を極端に大きくしないでください。
③収納扉に直接日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、すだれ等を設けて日光を遮ってください。

発生した「反り」は室内側と収納庫側の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

製品の品質保証について

弊社では、下記対象製品について、「保証期間一覧表」に示す期間、保証事項に記す内容に基づき、無料で修理させていただきます。保証期間経過後の修理については有料となります。

■対象製品
フィットシェルフ

■保証事項
通常の環境下で、弊社の施工説明書・取扱説明書に準じた正常な施工・使用がなされている状態（前提条件）で、弊社の責任に起因する製品不具合（保証期間一覧表参照）を無料で修理します。尚、本内容は日本国内においてのみ有効です。
※修理とは、壊れたり傷んだりした部分に手を加えて、再び使用できるようにすること。（原則、新品交換は含みません）

■保証期間
弊社製品の施工完了後、又は物件の引渡後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を無料で修理する期間としております。（保証期間一覧表参照）保証期間経過後の修理については有料となります。

保証期間一覧

保証事項			保証期間	
	保証個所	保証対象となる不具合現象	起算時期*2	
使用上の著しい*1支障が生じないこと	扉、ボックス、本体	作動不良（故障）	引渡後	2年
外観上の著しい*1変形・変質が生じないこと		変形・変質（反り、ハガレ、クラック）		

＊1：「著しい」の定義　正常な施工・使用状態のもとで、経過時間を考慮し客観的にみて、通常の状態から逸脱している度合いがきわめて大きいことをいいます。
＊2：保証期間起算時期について　保証事項が“使用”に係るものについては保証期間を“物件引渡後”から起算します。それ以外のものについては“当該製品施工完了後”から起算します。

■免責事項
製品の不具合原因が次のような場合には、保証期間内であっても保証対象外になります。

①建物の設計・施工に起因する不具合
②施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合
③自然現象・周辺環境等（注1）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合
④室内であっても部屋内外の温湿度差が著しく違う部位に取り付けられたことによる隙間・反り・キシミ音などの不具合
⑤極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位に取り付けられたことに起因する不具合
⑥建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する不具合
⑦入居者又は第三者の不適切な使用又は維持管理等に起因する不具合
⑧取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗、磨耗、破損、変形などによる不具合
⑨経時変化による通常一般的な当該保証対象品の変褪色、汚れ、さび、かび、劣化磨耗などの不具合
⑩用途外に使用された場合の故障および損害（例えば、一般家庭用を業務用に、屋内用を屋外に使用された場合等）
⑪犬・猫・鳥・鼠などの小動物の害に起因する不具合やキクイムシなどの虫害に起因する不具合
⑫仕上げ面のキズなどの不具合で引渡し時に申し入れがなかった場合
⑬保証期間経過後の申し出、または不具合発生後速やかに申し出がなかった場合
⑭製造時に実用化されていた技術では予測することが不可能な事象に起因する場合
⑮離島などの遠隔地へ出張を要する修理を行う場合、出張に要する実費
⑯その他当該不具合の発生が弊社の責によらない場合

注1：火災・地震・水害・落雷などの天災地変や、公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

お問い合わせ窓口について　●製品に関するお取扱い、補修、工事などのご相談は、組立て・設置業者、工務店へ。

製品に関するお問い合わせ

DAIKENお客様センター
0120-787-505
（フリーダイヤル）

● 受付時間…平日9:00～17:00
（土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みをいただいています）

https://www.daiken.jp/qr/form01/

メールで写真も送ることができます。

修理・交換部品のご購入の方は

DAIKENパーツショップ
部品のネット販売サイトです。
※購入に際しては登録が必要です。

https://www.daiken.jp/qr/service/

DAIKENホームページ ▶ お客さまサポート ▶ ▶▶▶▶ DAIKENパーツショップ

ご相談窓口における個人情報のお取扱い　大建工業株式会社および大建工業グループ各社は、当社「個人情報の取扱いに関する方針（プライバシーポリシー）」に則ってお客様に関する個人情報を利用させていただく場合がございます。（大建工業株式会社プライバシーポリシーに関しましては、当社ホームページに掲載しております。）　なお、電話での相談に対し、折り返し電話をさせていただくときのためにナンバーディスプレイを採用しています。またご相談内容を正確に把握し、適切に対応するために、通話内容を録音させていただくことがあります。